



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年1月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ドリコム

コード番号 3793 URL <http://www.drecom.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 内藤 裕紀

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部長 (氏名) 後藤 英紀

四半期報告書提出予定日 平成25年2月8日

TEL 03-6682-5700

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	6,342	34.2	368	△63.6	363	△64.0	115	△88.7
24年3月期第3四半期	4,727	—	1,014	—	1,010	—	1,018	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	850.37	842.91
24年3月期第3四半期	7,536.00	7,448.49

(注)当社は平成23年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行いました。平成24年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	4,511	2,257	48.5	16,086.25
24年3月期	4,458	2,219	48.7	16,009.18

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 2,186百万円 24年3月期 2,169百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,000	11.3	100	△92.6	100	△92.6	60	△92.5	442.52

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第5条の4に該当するものであります。詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	135,950 株	24年3月期	135,525 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	— 株	24年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	135,629 株	24年3月期3Q	135,161 株

- (注) 1. みずほ信託銀行株式会社(以下「ESOP信託口」という。)が所有する当社株式1,911株(議決権の数1,911個)につきましては、上記期末自己株式数に含めておりません。
 2. 期中平均株式数には、ESOP信託口が所有する当社株式を含めております。これは当社とESOP信託口が一体であるとする会計処理に基づき、ESOP信託口が所有する当社株式を含めて自己株式として処理しているためであります。
 3. 当社は平成23年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行いました。平成24年3月期期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信(四半期決算短信)の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
(5) セグメント情報等	7
(6) 重要な後発事象	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新興諸国経済の成長鈍化などによる不透明感を依然として残しながらも、年末以降、政権交代に伴う財政出動への期待感から円安とともに株相場が上昇し回復の兆しを見せ始めました。

当社の属するインターネット業界におきましては、スマートフォン(多機能携帯電話)の普及が大きな影響をもたらしました。2012年7月から9月の国内のスマートフォン出荷台数は前年同期比50.2%増の797万台となり、国内の全携帯電話端末出荷台数の72.1%を占めるに至っています(IDC JAPAN)。スマートフォン端末の急速な普及を受け、国内ばかりでなく海外市場を視野に入れたアプリ開発が可能になりました。スマートフォンの普及より創出された市場は今後も発展を続けることが予想されます。

このような環境の中、当社では、主力のソーシャルゲームサービス事業において、成長軌道への回帰に向け、ユーザー満足度向上を目指し運用への再注力を行いました。また、外部環境の変化に合わせ、ゲームのスマートフォン対応を進めました。結果、ユーザーの活性化が進み売上の伸長を実現できました。海外向けゲームが想定通りのスタートとなったことも、業績の後押しとなりました。費用面では、全社的に取り組んで参りましたコスト削減活動の効果が表れ、前四半期比での利益率改善に寄与しました。

以上のことから、当第3四半期累計期間の売上高は6,342,931千円(前年同期比34.2%増)、営業利益368,959千円(前年同期比63.6%減)、経常利益363,542千円(前年同期比64.0%減)となり、特別損失に係る会社整理損が発生したことで、四半期純利益は115,335千円(前年同期比88.7%減)となりました。なお、子会社であるSnout Sdn. Bhd.について、現在の当社グループの置かれた事業環境や業績等を勘案した結果、当社が保有する同社株式を全て譲渡することとしたため、現時点で見込まれる譲渡損等153百万円について、関係会社整理損(特別損失)を計上することといたしました。

セグメント実績は、以下の通りであります。

①エンタメウェブ

エンタメウェブでは、ソーシャルゲームサービス事業において、昨年から提供している既存ゲーム(※「陰陽師」、「ピクリマン」、「ちよこっとファーム」の3ゲーム)の再加速に向け、主に2つの施策に取り組みました。まず、再構築した体制のもと、サービス品質向上を目指しイベント開催等の運用に注力しました。さらに、スマートフォン普及という外部環境の変化に対応し、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)上で提供しているフィーチャーフォン(従来型携帯電話)向けゲームのスマートフォン対応を行いました。これらの結果、ユーザー一人あたりの課金単価が上昇し、スマートフォン移行ユーザーの離脱が減少したことで、前四半期比で既存ゲームの売上高が増加しました。また、第2四半期の提供開始以来伸び悩んでいた外部運用のゲームを内部運用に切り替えたところ、新規ユーザー獲得とユーザー活性化に成功し売上高が上昇傾向に転じました。海外展開の第一歩として、スマートフォン向けゲーム「Reign of Dragons(レイン オブ ドラゴンズ DragonDreizhenを改名)」を、アメリカ他29か国に提供しました。「Reign of Dragons」は10日間で60万ダウンロードを達成する堅調なスタートを切りました。費用面では上期に行った削減努力が結果し外注費、通信費が抑えられたことに加え、広告宣伝費、原材料仕入、採用費等が減少しました。

ソーシャルラーニング事業においては、ソーシャルゲームで培ったノウハウを活かし、2つのアプリで実験的に広告を出稿しました。また、来期提供予定である3本目のアプリの企画開発を開始しております。同事業は事業開発段階にあり、業績への影響は軽微です。

以上のことから、セグメント売上高は5,764,001千円(前年同期比35.8%増)、セグメント利益は493,853千円(前年同期比53.6%減)となりました。

②マーケティングソリューション

マーケティングソリューションでは、アドソリューション事業において、掲載メディアの増加に向けた営業努力を続けました。大手ポイントサイトへの動画広告導入が進展したことで視聴数が増加し、動画広告の売上は計画通り拡大しました。他方、動画広告以外の通常リワード広告は出稿数、視聴数ともに軟調に推移し売上が減少しました。利益率の高い動画広告の比率増と全社的な費用削減により損失幅は縮小したものの、引き続き損失を計上する結果となりました。

以上のことから、セグメント売上高は615,702千円(前年同期比25.3%増)、セグメント損失は124,894千円(前年同期比149.4%減)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は3,609,657千円となり、前事業年度末に比べ162,304千円減少いたしました。これは繰延税金資産が33,076千円増加したものの、売掛金185,223千円、未収入金が138,399千円減少したことによるものであります。固定資産は902,197千円となり、前事業年度末に比べ215,494千円増加いたしました。これは主に無形固定資産が181,511千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、4,511,854千円となり、前事業年度末に比べ53,190千円増加いたしました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は1,813,513千円となり、前事業年度末に比べ154,015千円減少いたしました。これは1年内返済予定の長期借入金が200,000千円増加したものの、買掛金が89,926千円、未払法人税等が273,868千円減少したことによるものであります。固定負債は441,336千円となり、前事業年度末に比べ169,908千円増加いたしました。これは主に長期借入金が190,013千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、2,254,849千円となり、前事業年度末に比べ15,893千円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は2,257,004千円となり、前事業年度末に比べ37,296千円増加いたしました。これは四半期純利益が115,335千円、新株予約権が20,014千円増加したことと、自己株式を120,346千円取得したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は48.5%（前事業年度末は48.7%）となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、現時点では変更しておりません。今後業績予想の修正が必要と判断された場合は、速やかに開示いたします。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別する事が困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による損益に与える影響は軽微であります。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,911,296	1,992,865
売掛金	1,662,238	1,477,014
前払費用	19,753	46,212
繰延税金資産	43,841	76,917
未収入金	140,041	1,642
その他	2,008	17,303
貸倒引当金	△7,218	△2,299
流動資産合計	3,771,961	3,609,657
固定資産		
有形固定資産		
建物	184,336	161,584
減価償却累計額	△40,701	△21,436
建物(純額)	143,634	140,147
工具、器具及び備品	68,583	57,252
減価償却累計額	△43,112	△39,026
工具、器具及び備品(純額)	25,470	18,225
有形固定資産合計	169,105	158,373
無形固定資産		
ソフトウェア	168,148	402,520
ソフトウェア仮勘定	63,476	10,757
その他	1,085	944
無形固定資産合計	232,711	414,222
投資その他の資産		
敷金	202,714	146,040
繰延税金資産	82,121	183,359
その他	50	200
投資その他の資産合計	284,885	329,600
固定資産合計	686,702	902,197
資産合計	4,458,663	4,511,854

(単位:千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	246,465	156,538
短期借入金	150,000	195,001
1年内返済予定の長期借入金	113,316	313,316
未払金	943,188	999,381
未払法人税等	347,231	73,363
未払消費税等	94,029	3,941
前受収益	12,691	3,310
賞与引当金	18,272	18,499
その他	42,332	50,160
流動負債合計	1,967,528	1,813,513
固定負債		
長期借入金	161,691	351,704
長期未払金	75,783	55,300
資産除去債務	33,953	34,331
固定負債合計	271,427	441,336
負債合計	2,238,955	2,254,849
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,059,807	1,070,954
資本剰余金	1,300,787	1,311,934
利益剰余金	△190,951	△75,616
自己株式	—	△120,346
株主資本合計	2,169,643	2,186,925
新株予約権	50,064	70,079
純資産合計	2,219,708	2,257,004
負債純資産合計	4,458,663	4,511,854

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	4,727,528	6,342,931
売上原価	2,145,976	4,071,883
売上総利益	2,581,551	2,271,048
販売費及び一般管理費	1,567,498	1,902,088
営業利益	1,014,053	368,959
営業外収益		
為替差益	93	—
業務受託料	—	3,300
その他	635	1,410
営業外収益合計	728	4,710
営業外費用		
支払利息	4,333	9,732
その他	—	394
営業外費用合計	4,333	10,126
経常利益	1,010,448	363,542
特別利益		
事業譲渡益	—	10,417
特別利益合計	—	10,417
特別損失		
関係会社整理損	—	153,637
事務所移転費用	3,000	—
その他	266	160
特別損失合計	3,266	153,797
税引前四半期純利益	1,007,181	220,162
法人税、住民税及び事業税	91,563	239,141
法人税等調整額	△102,954	△134,314
法人税等合計	△11,391	104,827
四半期純利益	1,018,573	115,335

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期 損益計算書 計上額(注)
	エンタメウェブ	マーケティング ソリューション	計		
売上高					
(1)外部顧客への 売上高	4,238,409	489,118	4,727,528	—	4,727,528
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高	5,463	2,232	7,695	△7,695	—
計	4,243,872	491,350	4,735,223	△7,695	4,727,528
セグメント利益又は損 失(△)	1,064,134	△50,081	1,014,053	—	1,014,053

(注) セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期 損益計算書 計上額(注)
	エンタメウェブ	マーケティング ソリューション	計		
売上高					
(1)外部顧客への 売上高	5,764,001	578,930	6,342,931	—	6,342,931
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	36,772	36,772	△36,772	—
計	5,764,001	615,702	6,379,703	△36,772	6,342,931
セグメント利益又は損 失(△)	493,853	△124,894	368,959	—	368,959

(注) セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。